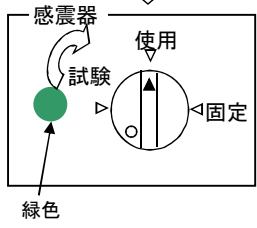
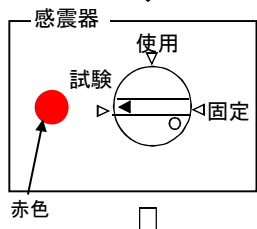
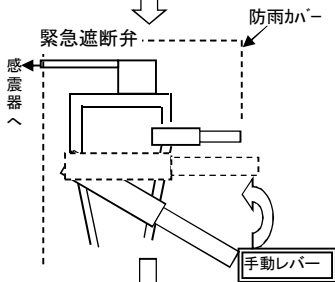
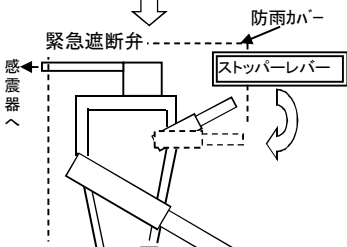
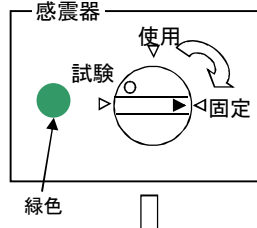
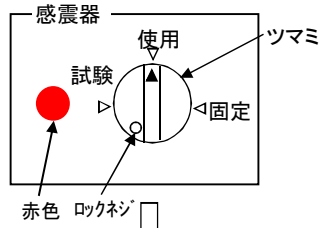


《 EIM型緊急遮断弁 復帰手順 》

地震後、感震器作動後の復帰手順について下記に記す。



《確認》

- ① **感震器表示部『赤色』
ツマミ『使用』**

※感震器のツマミのロックネジが緩んでいることを確認。
(ツマミ表面からネジ部が4mm程度ネジが出ている)

《作業》

- ② **感震器 ツマミを固定側に回す
(『固定』にセットする)**

※感震器表示部『赤色』⇒『緑色』に変わる。

《作業》

- ③ **緊急遮断弁本体の
『ストップパーレバー』を
水平に押し下げる**

※ストップパーレバーが水平位置でロックされていることを確認する。ロックされると『カチン』と音がする。

《作業》

- ④ **緊急遮断弁本体の
『手動レバー』を
水平まで持ち上げる**

※手動レバーをストップパーレバーにロックされるまで持ち上げ、バルブを『開』の状態にする。この際多少力が必要。

《作業》

- ⑤ **感震器 ツマミを試験側に回す
(『試験』にセットする)**

※『試験』にすることで手動レバーが落ち復旧前と同様斜めになる。また、『試験』の状態では作動表示は『赤色』。

- ⑥ **②～⑤を2～3回行う。
正常に遮断できるようであれば
②～④にて復旧を行ない、
感震器 ツマミを使用側に回す**

※セット後、感震器のツマミのロックネジを締める。

- ⑦ **復旧完了**

※その他製品取扱については取扱説明書をご参照下さい。

EIM-7型機械式緊急遮断弁 操作手順

操作前に緊急遮断弁の配管系統の破損状況を必ず確認してください。壊れたまま弁開すると、水が流失します。
 作動確認試験(点検)される場合は、手順1操作後、手順5から操作をはじめてください。

[弁開復帰の方法]

- 手順 1. 感震器のツマミの**ロックネジ**を⊕ドライバーで反時計回りに、**3~4回転**させゆるめてください。(左下図①)
 このロックネジをゆるめると、ツマミをまわすことができます。
- 手順 2. **感震器リセット**:感震器のツマミを「**使用**」から「**固定**」の位置までまわしてください。(左下図②)
- 手順 3. **増幅器リセット**:増幅器の**レバー**を上にカチンと音がするまで上げてください。(左下図③)
 増幅器のレバーが上がった状態で保持できているか確認してください。
- 手順 4. **遮断弁リセット(弁開)**:遮断弁本体付属の専用復帰ハンドルを蝶ネジをゆるめて取外し、遮断弁駆動部の手動軸に取付けて、駆動部上部にある開度表示計を確認しながら、「開完了」の範囲に矢印がくるように復帰ハンドルを時計回りに**約10回転(40A~125A) / 約9回転(150A~200A)**してください。(右下図④)
 ※(日除けカバー付の場合、日除けカバー上部の蝶ネジをゆるめ、フタを取ってから確認してください。)

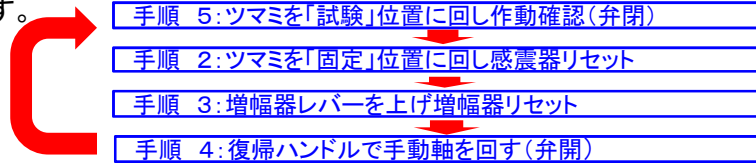
- ⚠ **注意1**:手動軸を上記回転数超えてまわすと、駆動部破損の恐れがあります。(付属以外のハンドルの使用はやめてください。)
2:復帰ハンドルを回している時は、感震器のツマミと増幅器のレバーには触らないでください。
3:復帰ハンドルを使用した後は、必ず手動軸から外してください。(遮断弁作動時、手動軸は高速回転します。)

[作動確認試験(点検)]

- 手順 5. **作動確認**:感震器のツマミを「**試験**」位置までまわすことで、遮断弁を弁閉することができます。
 感震器のツマミを「**試験**」位置まで回し、正常に弁閉できるか確認してください。(左下図⑤)

⚠ **注意**:遮断弁弁閉時に駆動部の手動軸が高速回転するので、手動軸に復帰ハンドルがないことを確認してください。

- 手順 6. 作動確認テストを**2~3度**行います。



[遮断弁弁開・感震器警戒状態へ]

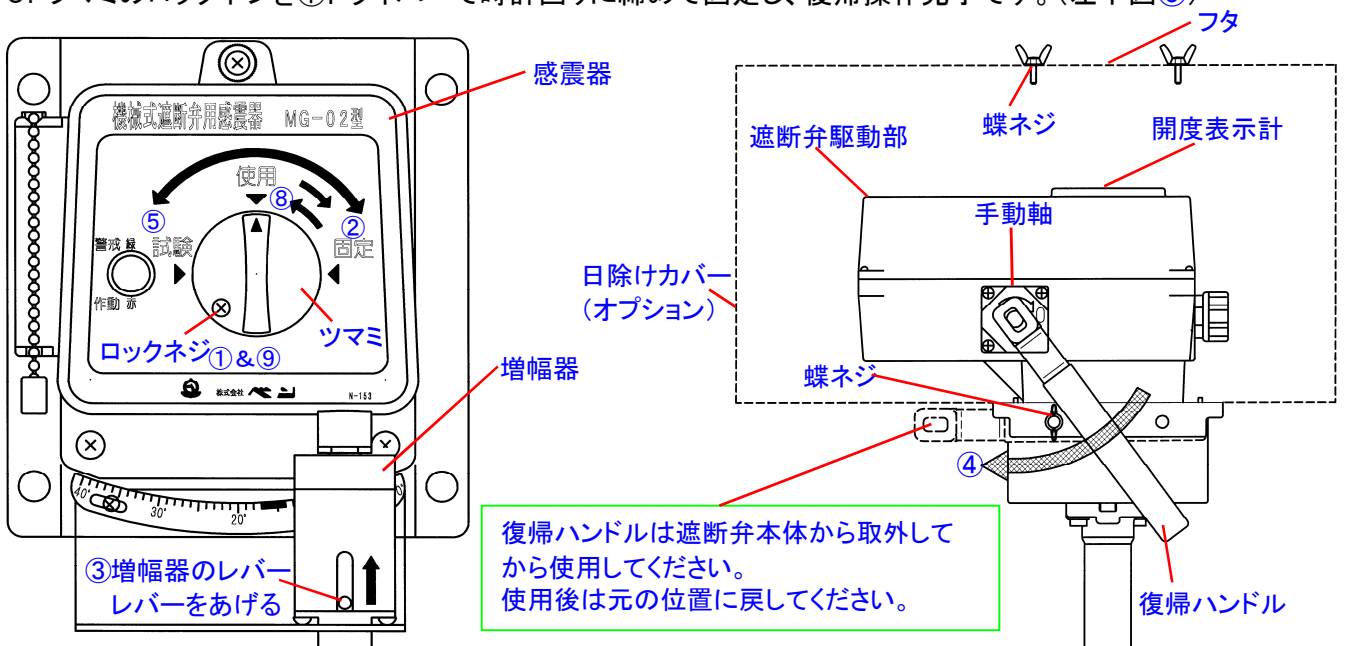
- 手順 7. 手順5→2→3の操作後、手順4の操作で**遮断弁を弁開状態**にします。

- 手順 8. 感震器のツマミを「**使用**」位置までまわします。感震器は地震警戒状態となります。(左下図⑧)

⚠ **注意1**:感震器のツマミが「**固定**」位置の状態で放置すると、地震が発生しても感震器は作動せず、遮断弁も弁閉しません。
 感震器のツマミは、最後は必ず「**使用**」の位置にしてください。

注意2:復帰ハンドルは元の位置に戻して、蝶ネジで取付けてください。

- 手順 9. ツマミのロックネジを⊕ドライバーで時計回りに締めて固定し、復帰操作完了です。(左下図⑨)



EIM-7型機械式緊急遮断弁 操作手順(二台制御用)

操作前に緊急遮断弁の配管系統の破損状況を必ず確認してください。壊れたまま弁開すると、水が流失します。
 作動確認試験(点検)される場合は、手順1操作後、手順5から操作をはじめてください。

[弁開復帰の方法]

- 手順 1. 感震器のツマミの**ロックネジ**を⊕ドライバーで反時計回りに、**3~4回転**させゆるめてください。(左下図①)
 このロックネジをゆるめると、ツマミをまわすことができます。
- 手順 2. **感震器リセット**:感震器のツマミを「**使用**」から「**固定**」の位置までまわしてください。(左下図②)
- 手順 3. **増幅器リセット**:増幅器の**レバー**を上にカチンと音がするまで上げてください。(左下図③)
 増幅器のレバーが上がった状態で維持できているか確認してください。
- 手順 4. **遮断弁リセット(弁開)**:遮断弁本体付属の専用復帰ハンドルを蝶ネジをゆるめて取外し、遮断弁駆動部の手動軸に取付けて、駆動部上部にある開度表示計を確認しながら、「開完了」の範囲に矢印がくるように復帰ハンドルを時計回りに**約10回転(40A~125A) / 約9回転(150A~200A)**してください。(右下図④)
 ※(日除けカバー付の場合、日除けカバー上部の蝶ネジをゆるめ、フタを取ってから確認してください。)

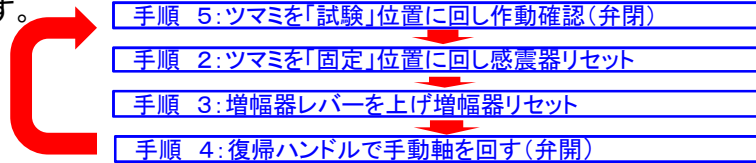
- ⚠ **注意1**:手動軸を上記回転数超えてまわすと、駆動部破損の恐れがあります。(付属以外のハンドルの使用はやめてください。)
2:復帰ハンドルを回している時は、感震器のツマミと増幅器のレバーには触らないでください。
3:復帰ハンドルを使用した後は、必ず手動軸から外してください。(遮断弁作動時、手動軸は高速回転します。)

[作動確認試験(点検)]

- 手順 5. **作動確認**:感震器のツマミを「**試験**」位置までまわすことで、遮断弁を弁閉することができます。
 感震器のツマミを「**試験**」位置まで回し、正常に弁閉できるか確認してください。(左下図⑤)

⚠ **注意**:遮断弁弁閉時に駆動部の手動軸が高速回転するので、手動軸に復帰ハンドルがないことを確認してください。

- 手順 6. 作動確認テストを**2~3度**行います。



[遮断弁弁開・感震器警戒状態へ]

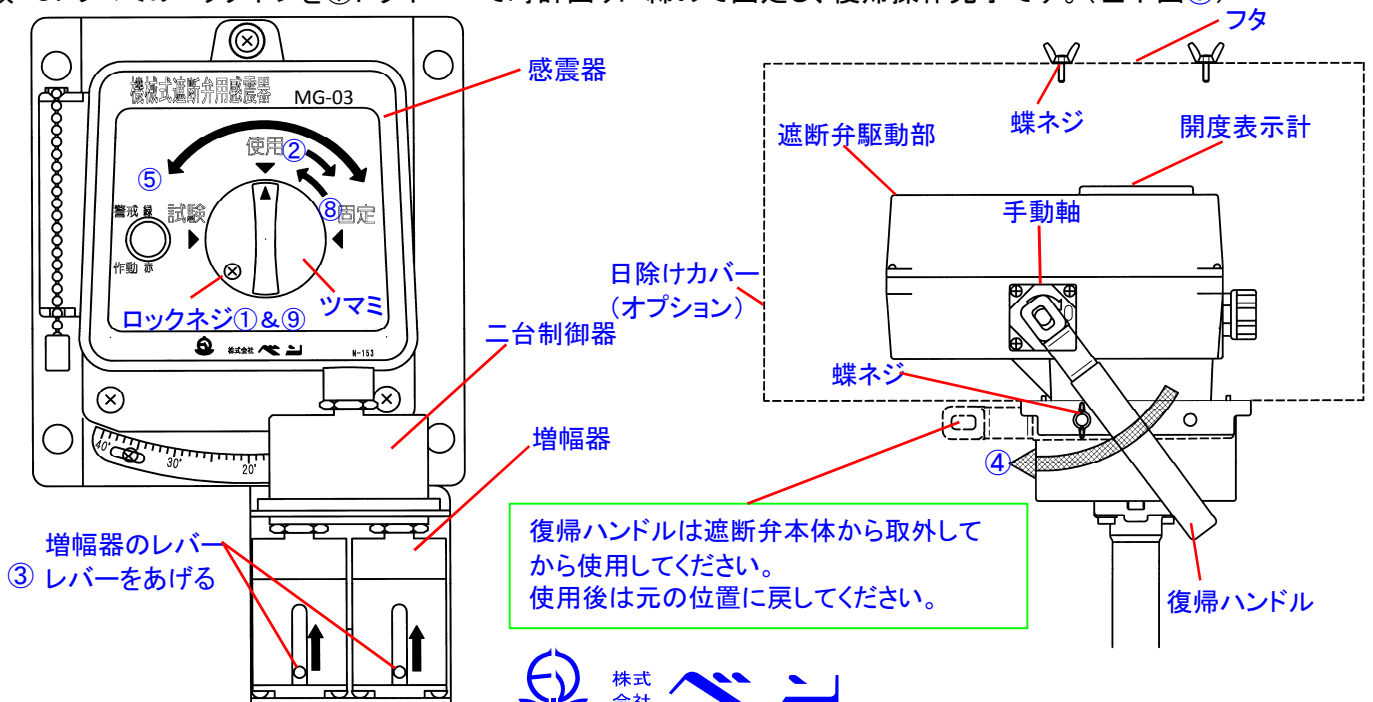
- 手順 7. 手順5→2→3の操作後、手順4の操作で**遮断弁を弁開状態**にします。

- 手順 8. 感震器のツマミを「**使用**」位置までまわします。感震器は地震警戒状態となります。(左下図⑧)

⚠ **注意1**:感震器のツマミが「**固定**」位置の状態で放置すると、地震が発生しても感震器は作動せず、遮断弁も弁閉しません。
 感震器のツマミは、最後は必ず「**使用**」の位置にしてください。

注意2:復帰ハンドルは元の位置に戻して、蝶ネジで取付けてください。

- 手順 9. ツマミのロックネジを⊕ドライバーで時計回りに締めて固定し、復帰操作完了です。(左下図⑨)



株式
会社



EIM-7型機械式緊急遮断弁 操作手順(250A/300A用)

操作前に緊急遮断弁の配管系統の破損状況を必ず確認してください。壊れたまま弁開すると、水が流失します。
作動確認試験(点検)される場合は、手順1操作後、手順5から操作をはじめてください。

[弁開復帰の方法]

手順 1. 感震器のツマミの**ロックネジ**を⊕ドライバーで反時計回りに、**3~4回転**させゆるめてください。(左下図①)
 このロックネジをゆるめると、ツマミをまわすことができます。

手順 2. **感震器リセット**:感震器のツマミを「**使用**」から「**固定**」の位置までまわしてください。(左下図②)

手順 3. **増幅器リセット**:増幅器の**レバー**を上にカチンと音がするまで上げてください。(左下図③)
 増幅器のレバーが上がった状態で維持できているか確認してください。

手順 4. **遮断弁リセット(弁開)**:遮断弁本体付属の専用復帰パイプを蝶ネジをゆるめて取外し、遮断弁駆動部の
 手動軸に挿入し、駆動部上部にある開度表示計を確認しながら、「0」の位置に矢印がくるように
 復帰パイプを必ずオープン方向(時計回り)に**約1.3回転**してください。(右下図④)

(復帰パイプがリリースまたは障害物にあたる場合は、一度復帰パイプを抜いて、反対側から再度挿入して回してください。)

⚠ **注意1**:復帰パイプを約1.3回転超えてまわすと、駆動部破損の恐れがあります。(付属以外のパイプの使用はやめてください。)

2:復帰パイプを回している時は、感震器のツマミと増幅器のレバーには触らないでください。

3:復帰パイプを使用した後は、必ず手動軸から外してください。(遮断弁作動時、手動軸は高速回転します。)

4:復帰パイプを逆方向(反時計)に回すと破損します。

[作動確認試験(点検)]

手順 5. **作動確認**:感震器のツマミを「**試験**」位置までまわすことで、遮断弁を弁閉することができます。
 感震器のツマミを「**試験**」位置まで回し、正常に弁閉できるか確認してください。(左下図⑤)

⚠ **注意**:遮断弁弁閉時に駆動部の手動軸が高速回転するので、手動軸に復帰パイプがないことを確認してください。

手順 6. 作動確認テストを**2~3度**行います。

手順 5:ツマミを「試験」位置に回し作動確認(弁閉)

手順 2:ツマミを「固定」位置に回し感震器リセット

手順 3:増幅器レバーを上げ増幅器リセット

手順 4:復帰パイプで手動軸を回す(弁開)

[遮断弁弁開・感震器警戒状態へ]

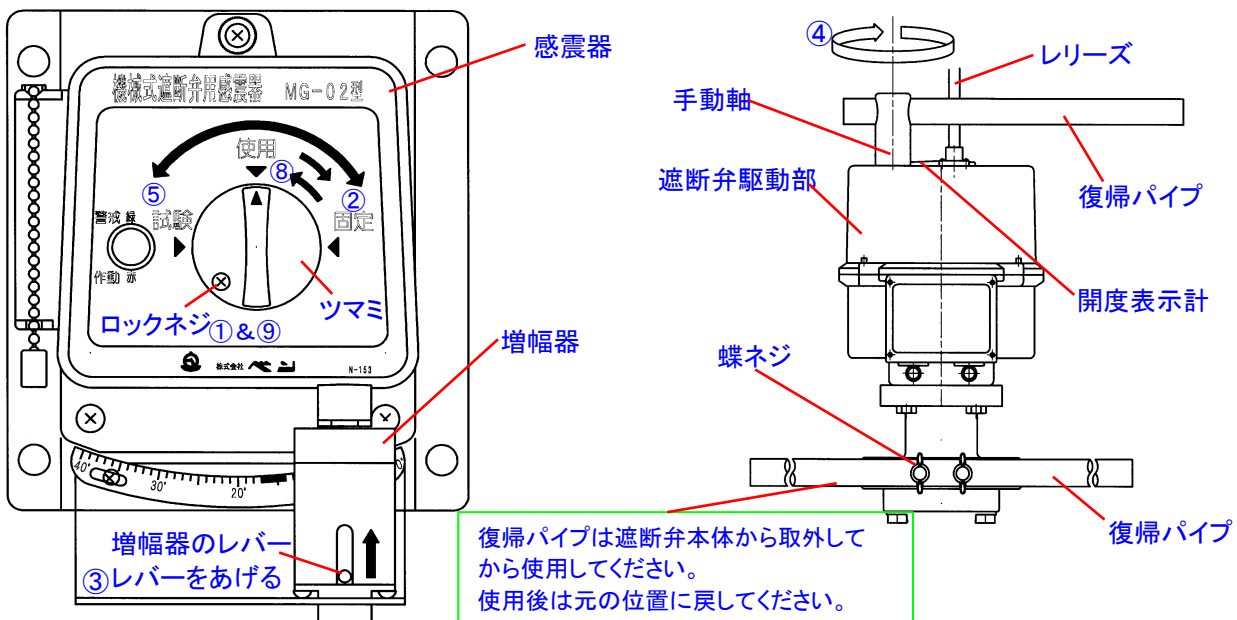
手順 7. 手順5→2→3の操作後、手順4の操作で**遮断弁を弁開状態**にします。

手順 8. 感震器のツマミを「**使用**」位置までまわします。感震器は地震警戒状態となります。(左下図⑧)

⚠ **注意1**:感震器のツマミが「**固定**」位置の状態では地震が発生しても感震器は作動せず、遮断弁も弁閉しません。
感震器のツマミは、最後は必ず「使用」の位置にしてください。

注意2:復帰ハンドルは元の位置に戻して、蝶ネジで取付けてください。

手順 9. ツマミのロックネジを⊕ドライバーで時計回りに締めて固定し、復帰操作完了です。(左下図⑨)



株式
会社



EIM-11型機械式緊急遮断弁 操作手順

操作前に緊急遮断弁の配管系統の破損状況を必ず確認してください。壊れたまま弁開すると、流体が流失します。
作動確認試験(点検)される場合は、手順1操作後、手順5から操作をはじめてください。

[弁開復帰の方法]

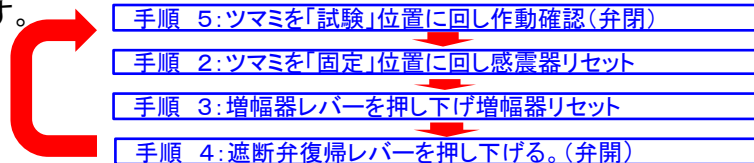
- 手順 1. 感震器のツマミの**ロックネジ**を⊕ドライバーで反時計回りに、**3~4回転**させゆるめてください。(左下図①)
 このロックネジをゆるめると、ツマミをまわすことができます。
- 手順 2. **感震器リセット**:感震器のツマミを「**使用**」から「**固定**」の位置までまわしてください。(左下図②)
- 手順 3. **増幅器リセット**:増幅器**レバー**を下にカチンと音がするまで押し下げてください。(左下図③)
 増幅器レバーが下がった状態で保持できているか確認してください。
- 手順 4. **遮断弁リセット(弁開)**:遮断弁本体の**復帰レバー**を押し下げ、**弁開位置**で保持できれば遮断弁弁開状態です。(左下図④)

[作動確認試験(点検)]

- 手順 5. **作動確認**:感震器のツマミを「**試験**」位置までまわすことで、遮断弁を弁閉することができます。
 感震器のツマミを「**試験**」位置まで回し、正常に弁閉できるか確認してください。(左下図⑤)

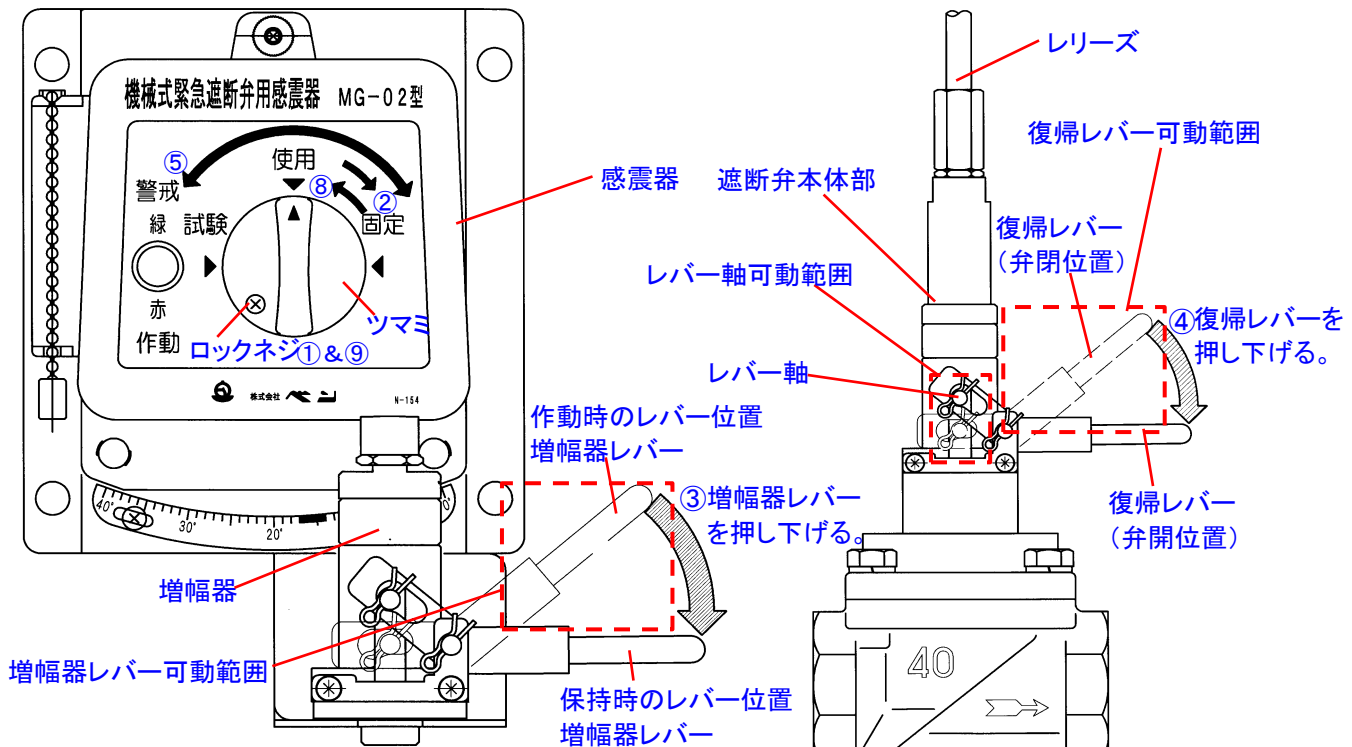
⚠️ 注意:「**試験**」位置に回す前に、増幅器レバー・復帰レバー・レバー軸の切替り時に、可動を拘束するような物がないことを確認してください。弁閉(遮断)する時は、増幅器レバー・復帰レバー・レバー軸は瞬時に弁閉位置に可動します。
 人の手などに当たった場合、怪我をする恐れがありますので注意してください。

- 手順 6. 作動確認テストを**2~3度**行います。



[遮断弁弁開・感震器警戒状態へ]

- 手順 7. 手順5→2→3の操作後、手順4の操作で**遮断弁を弁開状態**にします。
- 手順 8. 感震器のツマミを「**使用**」位置までまわします。感震器は地震警戒状態となります。(左下図⑧)
⚠️ 注意1:感震器のツマミが「**固定**」位置の状態で放置すると、地震が発生しても感震器は作動せず、遮断弁も弁閉しません。
 感震器のツマミは、最後は必ず「**使用**」の位置にしてください。
注意2:復帰ハンドルは元の位置に戻して、蝶ネジで取付けてください。
- 手順 9. ツマミのロックネジを⊕ドライバーで時計回りに締めて固定し、復帰操作完了です。(左下図⑨)



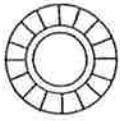
株式会社



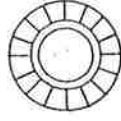
【緊急遮断弁の復旧方法】

『①』 制御盤側の確認

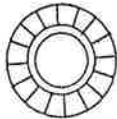
電源



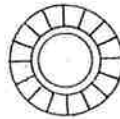
遮断弁開



遠隔遮断作動



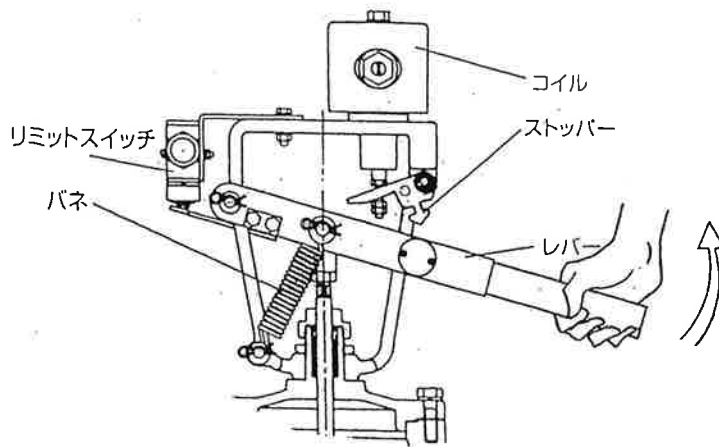
遮断弁閉



※遠隔遮断信号を解除し、遠隔遮断作動ランプの消灯を確認する

『②』 緊急遮断弁側の操作

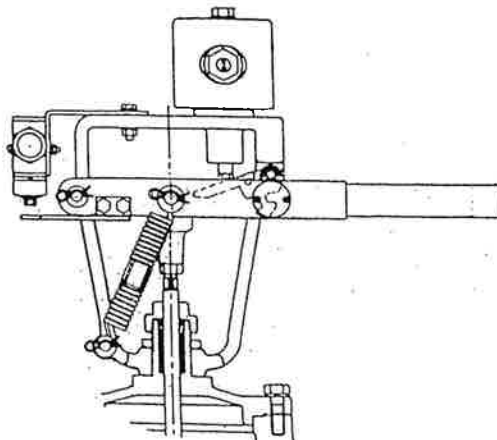
②-① 遮断弁開操作



レバーがストッパーに掛かるまで引き上げる

※ 遮断弁閉ランプが消灯

②-② 復旧完了



※ 遮断弁開ランプが点灯

「緊急遮断弁の復旧方法」

「1」制御盤の操作



感震器リセットボタンを押す

◎（リセットボタンを押すと遮断弁が自動的に開き始めます。）

地震感知器作動ランプの消灯を確認。

遮断弁 閉ランプ消灯を確認。

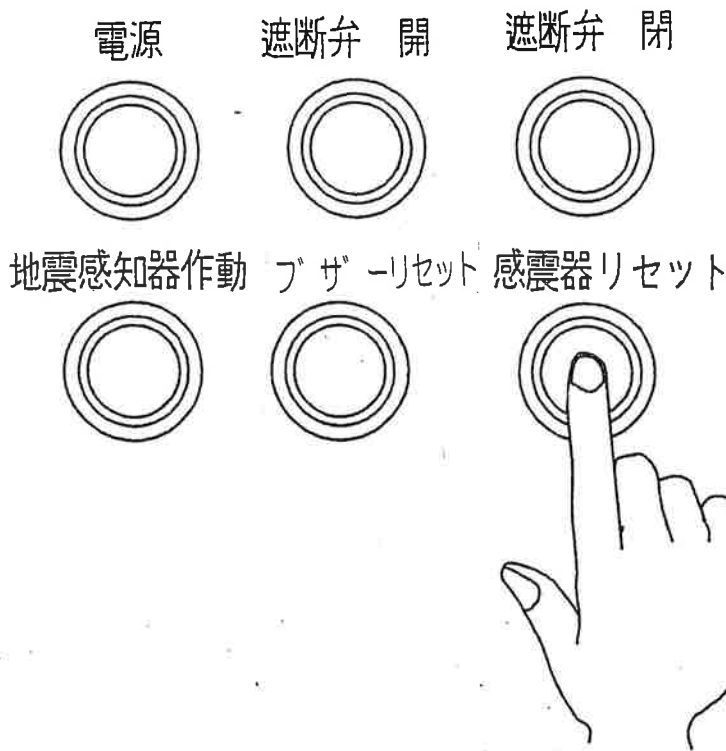
遮断弁 開ランプ点灯を確認。

（遮断弁全開）

★ M T:MR 型遮断弁動作後の復旧は、制御盤の感震器リセットスイッチを押し感知器が復帰すると自動的に開きます。従ってリセットする前に遮断弁以降の配管設備などに異常が無いか点検・確認してから行ってください。

「緊急遮断弁の復旧方法」

「1」制御盤の操作



感震器リセットボタンを押す

◎ (リセットボタンを押すと遮断弁が自動的に開き始めます。)

地震感知器作動ランプの消灯を確認。

遮断弁 閉ランプ消灯を確認。

遮断弁 開ランプ点灯を確認。

(遮断弁全開)

※図の盤面レイアウトは参考です。
制御盤の種類により配置やランプ
の個数かわります。

★ MRS 型遮断弁動作後の復旧は、制御盤の感震器リセットスイッチを押し感知器が復帰すると自動的に開きません。従ってリセットする前に遮断弁以降の配管設備などに異常が無いか点検・確認してから行ってください。